



# 毎日着るものだから、少しでも快適に、気持ちよく。



静岡市中心部で唯一、急性期病棟と回復期リハビリテーション病棟を併せ持つ静岡厚生病院。「愛される病院をめざす」を理念に掲げ、訪問看護ステーションや健康管理センターなども併設し、医療や介護の分野で地域に広く貢献されています。今回は看護部長の村井さんに、4年ぶりにリニューアルされたユニフォームについて、お話を伺いました。



## 新しいユニフォームで、気持ちも新たに1年をスタート!

今回どのような経緯で、このユニフォームを採用されたのでしょうか?

4年間着用していたユニフォームの更新の時期を迎え、新しいユニフォームに切り替えました。新しいユニフォームを選択するにあたって、各部署のトップ13名による看護委員会メンバーで、サンプルを25着ほど取り寄せて試着をし、その中からこのユニフォームを選びました。

アシックスのユニフォームですね。選ばれた理由を教えてくださいませんか?

ファスナータイプで脱ぎ着がしやすいのが一番のポイントでした。色は落ち着いたネイビーを選びました。首まわりの汚れが目立ちにくいのもいいですね。以前のものはVネックで着やすかったのですが、かぶるタイプだったので脱ぎ着の時に化粧が落ちてしまったり、ユニフォームに付着してしまうことがよくありました。また、ポケットの中身が落ちてしまうので、その都度全部出さなければならぬのも面倒でした。

忙しい中ですし、毎日のことですから、やはり着替はスムーズなほうがいいですね。実際に着用された感想は、いかがでしょうか?

スポーツメーカーのウェアなので動きやすいですし、通気性がよく快適です。サイドにネイビーのラインが入っていて、スリムに見えるのでみんな喜んでます。ポケットもしっかり大きくて、たくさん入るのも好評です。新しいユニフォームはやはり気持ちもリフレッシュされますし、モチベーションも上がりますね。働きやすい職場づくりも方針のひとつですから、スタッフが喜んで着てくれているとうれしいです。患者さんからも「良いね」「若く見えるね」と声をかけていただくこともありますよ。

動きやすさや着心地の良さを実感していただけて、私ももうれしいです。ジャケット×パンツの組み合わせは、以前からですか?

そうですね、立ち座りも多いのでジャケットとパンツがいいですね。災害などが発生した際のことを考えても、やはりパンツのほうが良いと思います。緊急搬送の受け入れから在宅看護まで対応しているので、動きやすさは最優先になりますね。訪問看護や地域連携などで外に出るスタッフは、白ではなく紺のパンツを着用しています。



## 住民の皆様の日々の健康を支え続ける病院に。

こちらの病院では、急性期から在宅看護まで一貫した医療を提供しておられるんですね。

はい、静岡市中心部では唯一、急性期病棟と回復期リハビリテーション病棟を持つケアミックス病院です。また、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所も併設しています。急性期から慢性期、在宅療養まで一貫した医療を提供できる環境を整えているのが、当院の特徴ですね。

入院中だけでなく、自宅に戻った後も継続してケアしてもらえるのは、患者さんも安心ですね。このような病院があるのは、地域の方にとっても、心強いと思います。

緊急搬送されてきた方、急性期を脱した方、退院後在宅で介護を受けられる方まで、各部署がそれぞれの知識と技術を持ち寄り、チームとして継続的な医療の提供に力を尽くしています。暮らしに根ざした病院をめざしていますので、地域の医療機関とも、病病・

病診連携を通じて協力合っています。また医療だけでなく、健康管理センターでは広く地域住民の方に対して、健康教育や健康診断などもおこなっています。

では最後に、大切にされていること、またこれからの展望をお聞かせください。

「愛される病院をめざす」を理念に掲げ、心の通い合う、根拠に基づく適切な医療を大切にしています。規模は大きくありませんが、その分丁寧に、小回りのきいた対応ができると想います。これからも地域医療を牽引する気持ちで、質の高い医療を提供していきたいですね。

地域医療のために一丸となって働いておられるみなさんのお役に立つことができ、私たちもうれしく思います。これからもより良いユニフォームで、気持ちよくお仕事につながるお手伝いができれば幸いです。

